



## 説教要旨 「何も持たずに」

ルカによる福音書9章1～6節

イエス様は12人の使徒たちを派遣するにあたって、「旅には何も持って行ってはならない。杖も袋もパンも金も持ってはならない。下着も二枚は持ってはならない」(3節)と命じられました。この旅のために備えをすること自体を禁止しておられるのです。自分の持っている能力や技術、いろいろな意味での蓄えや豊かさ、そういったものに頼るのではなくて、ただひたすら、イエス様の力、神様の力に依り頼み、それに信頼して、神の国の福音を、救いの知らせを宣べ伝えなさい、とイエス様は言っておられるのです。もしもそこで、自分で用意した何か、自分の力や蓄え、自分の中にもともとあるものを用いようとするなら、そこで語られるのはもはや神の国の福音ではありません。神の国の福音は、神様の支配を告げる言葉です。人間の力によって伝えられるのは所詮人間の言葉、人間の考え、人間の業でしかないのです。

わたしたちが福音を宣べ伝えようとする時、少なからず挫折を味わいます。むしろ福音をすんなり受け入れてもらえるケースの方がごく稀であるように思えます。そのような時に、その人に福音を伝えることが出来ない自分の力の無さを思い知らされます。イエス様は、そこでわたしたちが挫折を味わうであろうことをよく知っておられます。そして「その町を出て行くとき、彼らへの証として足についたほこりを払い落とさなさい」(5節)と言われるのです。もうそのことに捕らわれずに次の町に向かいなさい。他の人々に福音を伝えに行きなさい。と言われるのです。それは福音を受け入れてもらえない責任をあなたは負わなくて良いということです。むしろその責任を自分で負おうとすること自体が、わたしたちがまだ自分の力に頼ろうとしていることのあらわれなのです。私たちは「何も持たずに」この旅路についています。すべてを主にゆだねて歩むことは、そこで起こるすべての結果についても主にゆだねるということです。うまくいかなくても。思い通りにならなくても、そこでの失敗の責任をもすべて、主が負ってくださるのです。

(2019・1・27 説教者：稲垣真実)